

ワクワク・ドキドキ 202110

「映画は、観客と出逢い
はじめて映画になる・・・」

自主製作・自主上映でドキュメンタリー
創りを手がけて以来、この言葉をスローガ
ンのようにしてきた。

新作『いまはむかし -父・ジャワ・幻の
フィルム』の本格的な上映が始まって二ヶ月。東京・大阪・京都・名古屋・横浜・伊勢...と転戦してきて、もう一度この言葉をかみしめている。

ブンガワンソロが聴こえて、ゆったりとしたインドネシアの空気みたいに流れていて、今まで知りたがっていたことがスッキリわかった訳ではないが、心の底に届いたように思う。

(無記名)

「いまはむかし」「むかしはいま」このことばを初めて真剣に考えた。自らも問われる。自らを問わなければと思った。(67歳)

ずしんと響く映画でした。(35歳)

静かな映画でした。「人間は忘れるけど」「映像の方がすごいんだね」という伊勢監督の言葉が印象に残りました。(69歳)

創り手が考えごとをしているような映画でした...。(無記名)

「国策」という言葉に新しい視点ができました。「加担」するのではなく、「翻弄」される人たちの方がずっと多いのかと、足元を見ました。今の時代と限りなく繋がり、私にも繋がり、時間も空間も繋がっている。だから「いまはむかし」なのかな。(70代)

映画にしよう、と思いを決めてから三十年におよぶ歳月がかかってしまった一番の理由は、「戦争」のことを、しっかり受け止めて伝える自信がなかったからだ...。

自信がないままに完成させた映画を、観る人がそれぞれに受け止めてくれていることが、映画の感想を読むと伝わってくる。創ってよかった...と、思い始めているところだ。

『いまはむかし』が11月中旬から開催されるオランダ・アムステルダム国際ドキュメンタリー映画祭の正式招待作品となった。なんと三部門にノミネートた。私も招かれているので、行って来ようと思う。期間中に4回の上映があり、2回のトークセッションが予定されている。

日本国内でさえ「アンタの言っていることは、ようワカラン!」と映画もトークも言われることが多いのに、オランダまで行ってどうするつもりなんだ、と思われるかもしれないけど...

「映画は、観客と出逢い

はじめて映画になる・・・」

ということ言えば、アムステルダムで『いまはむかし』がどおいう“映画”になるのかを、楽しみにしている。

アムステルダムでの上映をきっかけに、『いまはむかし』が世界各地を旅することになり、それぞれの場所で観客と出逢い、“映画”になってゆくのだ。

全国各地のミニシアターでの上映も始まっている。学校やお寺、教会などからの自主上映の問合せも来ている。『いまはむかし』が日本中、世界中を駆け巡り、観客と出逢い、“映画”になってゆく旅を共にしよう、ヘボカントクはワクワク・ドキドキしている...。

Now is the Past (いまはむかし)

The Past is Now (むかしはいま)

応援よろしくお願いします。

伊勢 真一